

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別ニ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ

ニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一 拘留

二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ヲ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコト得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコト禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス
第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定

役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

○第五類○刑法○刑法

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕チ分タヌ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短チ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分チ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分チ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラ

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡チ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完

セサル者ハ一圓チ一日ニ折算シ之チ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金チ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金チ納メタル時ハ其經過シタル日數チ扣除シテ禁錮チ

免ス親屬其他ノ者代テ罰金チ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日

以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短チ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡チ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之チ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權チ剝奪ス

一國民ノ特權

二官吏ト爲ルノ權

三勳章年金位記貴號恩給チ有スルノ權

四外國ノ勳章チ佩用スルノ權

五兵籍ニ入ルノ權

六裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
七後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ
剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失
ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視
ノ期間間公權ヲ行フヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終
ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ス

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ
禁ノ幾分ヲ免スルヲ得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短
期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スル
ノ外監視ニ付スルヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス

五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ
得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ
監視ヲ免スルヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第廿
七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於
テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收
ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ
所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

○第五類○刑法○刑法

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレ、ト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、トヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

○第五類 ○刑法 ○刑法

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス
第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ通レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一死刑ハ三十年

二無期徒刑ハ二十五年

三有期徒刑ハ二十年

四重懲役重禁獄ハ十五年

五輕懲役輕禁獄ハ十年

六禁錮罰金ハ七年

七拘留科料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ通レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

○第五類 ○刑法 ○刑法

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期流刑

三有期徒刑

四重禁獄

五輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮

ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ

以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金

額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一
ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科
料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及
フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四
分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ル
ヲ得減シテ一日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ル
ヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サ
ル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減ス
ルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

○第五類○刑法○刑法

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審察シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘡腫者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス其情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス
二歳ニ滿サル者及ヒ瘡腫者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害
 ナ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セ
 スト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス
 第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首ス
 ルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス
 第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其
 本條ニ從フ

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ
 本刑ヲ減輕スルヲ得
 法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍
 ホ之ヲ減輕スルヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯減輕

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ
 一等ヲ加フ
 第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本

刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本
 刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタ
 ル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ
 得ス

第九十五條 刑期限內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定
 役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ
 定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其
 重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタ
 ル時ハ初犯ノ罪常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スル
 ヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以
 テ論スルヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第一百二條 一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シ

キ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前條ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第一百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒収及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第一百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第一百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

第一百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第一百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シ

○第五類 ○刑法 ○刑法

タル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス
二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ニ科ス

第二節 從犯

第九條 重罪輕罪ヲ犯スコヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第十一條 罪ヲ犯サンコヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第十二條 罪ヲ犯サンコトシテ己ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若

クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ己ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十三條 重罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處分スルヲ得ス

違警罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一 祖父母父母夫妻

二 子孫及ヒ其配偶者

三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者

四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者

五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

六 父母ノ兄弟姉妹ノ子

七 配偶者ノ祖父母父母

八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

第五類 ○刑法 ○刑法

九配偶者ノ兄弟姉妹ノ子

十配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ

繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ

兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第壹章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ

死刑ニ處ス

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以

下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ付加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘン

トシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮

ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上

二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ

目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其

情輕キ者ハ有期徒刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情

輕キ者ハ輕禁錮ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ付和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年

以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物

品ヲ劫掠シタル者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉

ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

九配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
十配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ
繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ

兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第壹章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ
死刑ニ處ス

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以
下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ付加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘン
トシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮
ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上
二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ
目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期徒刑ニ處シ其
情輕キ者ハ有期徒刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情
輕キ者ハ輕禁錮ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ付和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年
以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物
品ヲ劫掠シタル者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧
ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第二百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第二百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲

シタル者ハ第二百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前

ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上

五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル

重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗

敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ

同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ

敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯

集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦

同シ

第二百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交

戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ

致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第二百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫

備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第二百三十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告

ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以

上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖

モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處

ヲ附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十七條 兇徒多衆ヲ囂衆シテ官廳ヲ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其情輕ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若シハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第三百四十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第三百四十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百四十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内及ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

第三百四十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第三百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百四十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第三百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百四十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

○第五類 ○刑法 ○刑法

第四百七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルヲ知テ之ヲ藏匿シ若シハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第四百十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件

ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 附加刑ノ執行ヲ通ル、罪

第四百十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第四百十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖雇職工又ハ雇人ニシテ止テ正犯ノ便令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂ノ罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有チ問ハス之ヲ沒收ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若シハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第百六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險アル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シテ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル者ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

○第五類○刑法○刑法

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戸墻壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ看守自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ

盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺テサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行ラテ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命ゼラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 裁判所ヨリ証人トシテ證據ヲ陳述スルヲ命ゼラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルヲ命セラレタル者故ナシシテ之ヲ背セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 內國通用ノ金銀貨幣及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣偽造ノ變造已ニ成テ未ダ行使セ

サル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ未ダ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未ダ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ受取シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス其未ダ行使セザル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月

以上二年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未ダ行使セザル

前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百九十七條 御璽國璽官印記号印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ看守者自カラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第百九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百九十九條 己ニ貼用シタル各種ノ印紙郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債証書地券其他官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○第五類○刑法○刑法

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其又書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者

ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ

重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若シハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以

上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以

下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ

未遂犯罪ノ例ニ例シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以

上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造

シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ

受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百五條 公務ヲ免カレ可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽

造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分ダス一月

○第五類 ○刑法 ○刑法

以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
醫師屬託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行
使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例
ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ
亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽証ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人
ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處
斷ス

一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處
シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス
第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽証者ノ刑

前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シ
テ處斷ス

一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ
處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處シ四圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮
ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪
發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反座ス若シ反座ノ刑前條ニ記載シタル
偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シ
テ反座ノ刑期ヲ減スルヲ得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降スヲ得ス
第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反座ノ刑一
等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス
若シ被告人ヲ死ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反座

第五類 ○刑法 ○刑法

ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲ爲シタル者ハ一

月以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳

述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑

定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ

至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ

刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商買農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一

月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其

囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職

業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上廿圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳

章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上廿圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以

上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲

シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又

○第五類○刑法○刑法

ハ増減シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ作り投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一月以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者十一日ヲ上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪
第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 第二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月

以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス
賭博ノ器具財物其現場ニアル者ハ之ヲ沒収ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上

五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セズ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢

事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ又前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

囚テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ囚テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシ

○第五類○刑法○刑法

ムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官前察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ

又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賂賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ尙カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂己ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪
第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス
因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收

シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス
第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シ

タル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癡疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ

前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カ
ル爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑
ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成
スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル
ヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在
ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫
助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス
第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫
メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ因テ疾
病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ

殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル
者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者
ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦
ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限
ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ
踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕
ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又
ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ
殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セ
ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者
ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第二百三十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ廢篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メ

ニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セ

ノト脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セ
ント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條
ノ例ニ同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ
告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以
上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同
シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加
フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ
一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎
ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其墮胎セシムル
ノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癱篤疾又ハ死ニ致シタル
者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下
ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老疾者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シ
タル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ
犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癱疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ
處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處

○第五類○刑法○刑法

ス

第二百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セズ又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

第二百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年亦下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等

ヲ減ス

第二百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

第二百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第二百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第二百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若

シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第二百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第二百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

第二百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪
第二百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第二百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第二百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辨護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因テ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

○第五類 ○刑法 ○刑法

第二百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第二百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス 其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第二百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第二百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若シハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第二百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若シハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年

以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊盜シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ
若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第二百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第二百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ
一二人以上共ニ犯シタル時
二兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第二百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ重ス

第二百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第二百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ強取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第二百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第二百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ穩匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ穩匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第二百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第二百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ
後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ
一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル
者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四
拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ
重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財
物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物資ヲ變シ若クハ
分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物
ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺穩シテ他人ニ賣與シ

又ハ重不テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以
下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物
件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶共
他ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏
匿漏脱シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處分
ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ
未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記席シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲
ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強盜盜ノ贓物タルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄贓故買シ若
クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若シハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木ノ其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ

監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ以テ

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トチ分チ放火失火ノ例ニ照シ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第五類 ○刑法 ○刑法

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル時ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四編 違警罪

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル証書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二

月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
一規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
二規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
三官許ヲ得ズシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者

九人ヲ毆打シテ傷創疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ媒合容止ヲ爲シタル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ

肯セサル者

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

○第五類○刑法○刑法

- 三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 八警察規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
- 十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒檻ヲ出シタル者
- 十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者
- 十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以

上一圓以下ノ科料ニ處ス

- 一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 - 二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 - 三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
 - 四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 - 五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 - 六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 - 七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放テ又ハ牧畜シタル者
 - 九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
 四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
 五瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
 六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
 七汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
 八警察規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
 九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
 十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
 十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
 十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
 十三私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒檻ヲ出シタル者
 十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
 十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者
 十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以

上一圓以下ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
 四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放テ又ハ牧畜シタル者
 九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

- 二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サ、ル者
- 七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二銘酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四人家ノ壁牆ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
- 十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
- 十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折タル者シ

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

○第二款 刑法附則

明治十四年十二月第六十七号布告

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元 始 祭

孝明天皇祭

○第五類 ○刑法 ○刑法附則

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ隱婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ名所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者及ヒ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家属ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得且其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

○第五類○刑法○刑法附則

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服シタル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 (明治十五年八月第四十二號布告改正)

監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察署ヨリ住所ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送スベシ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スベシ

第二十四條 (明治十五年八月第四十二號布告削除)

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

○第五類 ○刑法 ○刑法附則

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其

他ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内及ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ移轉スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

○第五類○刑法附則

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシメテ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル者ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 (明治十五年八月第四十二號布告改正) 假出獄ヲ許スヘキ者ハ據メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ第二十

二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十五條第二十六條第

二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一 每週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察所

ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二

條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 (明治十六年十二月第二十九號布告改正)

日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ據リ各地方適宜其額ヲ定ムヘシ

日當五十錢以下

旅費一里十錢以下

止宿料一宿二十五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ

日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 証人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 証人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日

當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ

輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品

ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラスンテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル物其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 贓物交換シ現在スル時ハハ公商ニ由ルト否トテ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在

○第五類 ○刑法 ○刑法附則

ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判己ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

○第三款 新舊法比照例

明治十四年十二月八十一号布告

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ
第一條 新舊法比照左ノ如シ

新法	舊法
一 死刑	斬絞
二 無期徒刑	懲役終身
三 有期徒刑	禁獄終身
四 無期流刑	
五 有期流刑	禁獄終身
六 重懲役	懲役十年
七 輕懲役	懲役七年
八 重禁獄	禁獄十年
九 輕禁獄	禁獄七年
十 重禁錮	懲役十一日以上五年以下
十一 輕禁錮	禁獄鎖錮十一日以上五年以下
十二 罰金	贖罪收贖罰金科料二圓以上
十三 拘留	懲役禁獄鎖錮拘留十日以下
十四	贖罪收贖罰金科料二圓未満

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以

○第五類○刑法○新舊法比照例

上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類) 若シ舊法ノ刑期法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ (舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルコトヲ得ス (舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル者ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類) 若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ (舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ

其罰金ヲ附加セズ

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル者ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セズ但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セズ

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セズ

第十二條 新法ト舊法ト比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ株鎖ニ該ル者ハ仍ホ株鎖ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

○第五類 ○刑法 ○罰例處斷法

○第四款 罰例處斷法

明治十四年十二月
第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

第一條 凡ソ懲役ハ十一日以上ヲ以テ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡ソ禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡ソ罰金及科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未満ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及答可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ據テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スルモノト雖モ輕罪裁判所ニ於

テ之ヲ處斷ス

但始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

○第二章 罰則

○第五款 讒謗律

明治八年六月
第一百十號布告

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セズ人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非スノ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示シテ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條例ニ從テ罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五十圓以上千圓以下ニ罰并ヒ科シ或ハ偏ヘニ

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓以上七百圓以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百

○第五類 ○刑法 ○讒謗律 ○賭博犯處分規則

以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ證スル者ハ第一條ノ例ニアラス其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ俟テ其被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レスシテ單ニ人ノ榮譽ヲ害スルモノハ讒毀スルノ後官ニ告發スト雖モ仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

○第二章 罰則

○第一款 賭博犯處分規則

賭博犯ノ義ハ刑法第二百六拾條第貳百六十一條ニ明文有之候得共當分ノ

明治十七年一月 第壹號布告

内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノヲ行ハシム

賭博犯處分規則

第壹條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ワズ之ヲ没入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府 縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルヲ得

○第五類○刑法○賭博犯處分規則

○第二款 富籤賣買及 購買罰則

明治十五年五月 第二十五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡ソ富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡ソ富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトチ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但シ初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコト得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セズ

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

○第三款 帶刀ニ關スル處分方

明治九年三月 第三十八號布告

自今大禮服用并ニ軍人及ヒ警察官吏等成規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事
但違背ノモノハ其刀可取上事

○第四款 賣淫取締方

明治十四年十二月 第六十四號布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘモ當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス

○第五款 朝鮮國ニ於テ行

朝鮮國ニ於テ行 明治十六年四月 第拾壹布告

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ爲シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○第五類 ○帶刀ニ關スル處分方 ○賣淫取締方

下四百七十九

○第六款 水底電信線路 明治十六年二月 第五號布告

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○第七款 北海道水產物 明治十七年五月 第十二號布告

北海道ニ納稅スヘキ水產物ヲ取獲セントスルモノハ其地ノ管廳へ願出許可テ受クヘシ違フモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス 右奉 勅旨布告候事

○第八款 臘虎并臘肭獸 明治十七年五月 第十六號布告

自今北海道ニ於テ臘虎并臘肭獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス 但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラズ

右奉 勅旨布告候事

○第九款 米穀金銀貨諸物 明治十三年四月 第二十一號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリ米穀ガニ米穀并ニ金銀貨幣及ヒ株式ノ限月若クハ現場(定規ヨリ起リ)賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ 但シ本條ヲ犯シタル者ハ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル時ハ其罪ヲ問ハス

▲明治十三年九月第四十九號太政官達

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ品物ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年(四月)第二十一號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

▲明治十六年一月第四號布告

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ

○第五類○刑法○米穀金銀貨諸物品限月賣買罰則 下四百八十一

方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ
給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第
二十一號布告ニ據リ處分スヘシ

明治十六年八月第二十九號布告

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀並金銀貨幣公債證書株式
ノ限月若クハ現場(定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買又ハ其類似ノ取引
ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買
取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米
商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム
右奉 勅旨布告候事

明治十五年八月第四十六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況
穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルキハ農商務卿ハ其會所又
ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシ
ムルコトアルヘシ

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

○第十款 檣燈舷燈製造罰則

明治十四年五月
第三十四號布告

明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及ヒ舷
燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス
犯ス者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

○第十一款 銃砲彈藥ニ
關スル罰則

明治五年九月
第二百八十二號布告

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方
ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事
但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金可被下
候事

○第十二款 銃砲彈藥製造罰則

明治七年十二月
第三百三十二號布告

免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以內ノ過料
可申付事

但書同前

○第五類 ○刑法 ○檣燈舷燈製造罰則 ○銃砲彈藥ニ關スル罰則 下四百八十三

○第十四款 裁判所呼出 遲不參罰則

明治十年一月 第五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スル
キハ其事故ヲ詳記シ呼出時刻迄ニ其裁判所ニ届出ベシ若シ右刻限ヲ過キ
テ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルキハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上二
圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ
右布告候事

○第十三款 酢造ニ關スル罰則

明治十六年十二月 第四十二號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許
稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ第一項ニ從ヒ酒類
ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許
サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收
ス其己ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス
第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ
壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

○第三章 軍律

○第一款 陸軍刑法

明治十五年三月 第六十九號布告

陸軍刑法目錄

第一編 總則

- 第一章 法例 自第一條至第十四條
 - 第二章 刑例 自第十五條至第三十五條
 - 第三章 加減例 自第三十六條至第四十五條
 - 第四章 數罪俱發 第四十六條
 - 第五章 數人共犯 自第四十七條至第四十八條
 - 第六章 未遂犯罪 第四十九條
- 第二編 重罪輕罪
- 第一章 反亂 自第五十條至第六十五條
 - 第二章 抗命 自第六十六條至第六十八條
 - 第三章 擅權 自第六十九條至第七十一條
 - 第四章 辱職 自第七十二條至第七十五條
 - 第五章 暴行 自第七十六條至第九十二條
 - 第六章 侮辱 自第九十三條至第九十六條

○第五類 ○刑法 ○陸軍刑法

第七章 逆令

自第九十七條至第一百十六條

第八章 逃亡

自第一百十七條至第一百二十條

第九章 詐偽

自第一百廿一條至第一百廿四條

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ク判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若シハ讀法ノ式ニ

由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可

キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十

九條第九十條第一項第九十五條第百十一條第百十二條第百十三條第百十四條第百十五條第百十六條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト

雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百十九條第百二十條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第

○第五類○刑法○陸軍刑法

五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ揭ク
ル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若
クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス

第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三編第
一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲クル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期徒刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮
- 第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治產
- 五 監視
- 六 沒收

第十九條 陸軍法術ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令ナルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス
軍中若シハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ
行フヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分ダス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

○第五類 ○刑法 ○陸軍刑法

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分テ島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分テ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長

短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二

十一條第二十二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑ニ於

テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納

完セズ禁錮拘留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判

長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加ス

ル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フ

ヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三

十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條ニ記載ス

ル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若シクハ海軍刑法ニ依リ

禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ル

ノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルコトヲ得

第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視

ニ付シ若シハ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セズ

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十

三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九

○第五類○刑法○陸軍刑法

條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ
記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適
用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲グル所
ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第二百一十一條ニ掲グル所
ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章第八章及ヒ第七十
七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條
第八十六條ニ掲グル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加
減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁獄
ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ
以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以
テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日
以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ
處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者

○第五類 ○刑法 ○陸軍刑法

ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 剝官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不論罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法剝官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ剝官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職

ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第百十九條ニ掲グル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法第百一十一條第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ

○第五類○刑法○陸軍刑法

爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ其他軍機軍情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第五十五條 軍人敵圍ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシテ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬥ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀛車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條 軍人前數條ニ據クル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

第六十三條 軍人前數條ニ據クル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ

六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○第五類○刑法○陸軍刑法

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲ケル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下テ可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

若シ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

○第五類○刑法○陸軍刑法

ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其

他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁錮ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ重禁錮ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相鬪毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ

○第五類○刑法○陸軍刑法

輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若シハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若シハ現ニ戰鬪ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁氣車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十二條 哨兵衛兵妄リニ銃砲ヲ發スル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁

鋼ニ處ス

第九十三條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮辱スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮辱スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮辱スル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨兵ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五年以

下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條 軍人擅ニ哨兵ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ

處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ

第一百二條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百四條 司令官命令ニ從フヲ得サル時罰署若クハ其命セラル、所ノ事ヲ變更シ直ニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其事變ニ因リ暗號記號ヲ改メ直ニ之ヲ申報セサル者亦同シ

第一百五條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍事ノ機密ヲ漏洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百六條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レ十日ヲ過ル

○第五類○刑法○陸軍刑法

者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過ク者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス
第九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若シハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁獄ニ處ス

第十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ輕禁錮ニ處ス

第十四條 軍人前二條ニ掲クル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一月以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡

第十七條 軍人擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上

第五類 刑法 陸軍刑法

二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
第百十八條 軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ル、者ハ逃亡ト爲シ輕禁錮ニ處ス

第百十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕禁錮ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
其他ノ犯人ハ第百十七條第百十八條ニ照シテ處斷ス

第百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス
第九章 詐僞

第百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受テ詐僞ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス
其屬託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、トナ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ル、トナ圖ル者亦同シ

○第二款 海軍刑法 明治十五年三月第七十号布告

海軍刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 刑期計算

第五節 假出獄

第六節 期滿免除

第七節 復權

自第一條至第五條

第六條ヨリ

第十條ヨリ

第十六條ヨリ

第二十六條

第二十七條

第二十八條

第二十九條

○第五類 ○刑法 ○海軍刑法

第三章	加減例	自第三十條至第三十六條
第四章	不論罪及ヒ減輕	自第三十七條至第四十條
第一節	不論罪及ヒ宥恕減輕	第三十七條第三十八條
第二節	自首減輕	第三十九條
第三節	酌量減輕	第四十條
第五章	再犯加重	第四十一條第四十二條
第六章	加減順序	第四十三條
第七章	數罪俱發	自第四十四條至第四十六條
第八章	數人共犯	第四十七條第四十八條
第九章	未遂犯罪	第四十九條
第十章	名稱例	自第五十條至第五十五條
第二編	重罪輕罪	
第一章	反亂	自第五十六條至第七十二條
第二章	辱職	自第七十三條至第八十五條
第三章	抗命	第八十六條第八十七條
第四章	暴行	自第八十八條至第八十九條
第五章	侮辱	自第九十條至第九十二條

第六章	燒燬毀壞	自第九十四條至第九十九條
第七章	擅權	第一百十條第一百十一條
第八章	違令	自第一百十二條至第一百二十二條
第九章	逃亡	自第一百二十三條至第三十五條
第十章	詐僞	自第一百三十六條至第三十九條

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ領布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯領布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百二條第一百四條
 第一百五條第一百六條第一百七條第一百八條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條
 第一百三十條第三十一條第三十二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタ

○第五類○刑法○海軍刑法

ル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

教唆若クハ幫助シテ第三百三十一條第三百三十四條第三百三十五條ノ罪ヲ犯

サシメタル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六

十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ

犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰

謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス

第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ從リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第

一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第三百三十七條ニ

記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期徒刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一剝奪公權

二剝官

三停止公權

四禁治產

五監視

六沒收

第二節 主刑處分

○第五類○刑法○海軍刑法

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヲ得

第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十

五條第十六條ノ例ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十

九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十三條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタル外之ヲ附加スルヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役ヲ免ゼス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フヲ得停止ス

第二十二條 禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條

第四十一條ノ例ニ同シ

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第四十三條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若シハ主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

○第五類 ○刑法 ○海軍刑法

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第三十一條 第九十九條第四百條第五百六條第五百七條第五百二十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重禁獄

五輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分

○第五類 ○刑法 ○海軍刑法

ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一章 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ
第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第百條第百二條第百三條ノ例ニ同シ
第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時

○第五類 ○刑法 ○海軍刑法

亦一ノ重キニ從テ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第百三十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス

但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ

將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ

軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ト同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者

○第五類 ○刑法 ○海軍刑法

ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期徒刑ニ處ス

二諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第五十七條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル緊要ノ圖書ヲ敵ニ付シ若クハ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ又ハ暗號軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

ニ處ス

第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀

○第五類○刑法○海軍刑法

ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ
六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋
ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以
下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得キ時ニ於テ敵ニ降り又ハ其艦船
若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船若ク
ハ兵隊ヲ率ニ遁去シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑
ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先クテ其
艦ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ前テハ有期流刑ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ
之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日以上六月
以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略ヲ盡
サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮
ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲サ、
ル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

敵前ニ在テ我船舶ヲ救援ス可キ時故ナク其事ヲ爲サ、ル者亦同シ

第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乗入ラシ
メタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ委棄シタル者ハ
左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ重禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

○第五類○刑法○海軍刑法

第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、

ル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十四條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍機若シハ軍事ニ關スル秘密

ノ圖書ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官

ヲ附加ス

第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救援ヲ請求ヲ受

ケ故ナシ之ヲ肯セサル者ハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章 抗命

第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若シハ服

從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ擱岸坐礁其他船舶救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ

三年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ

附加ス

第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別

ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ擱岸坐礁其他船舶救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ

首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將

校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以

下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕

禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁

錮ニ處ス其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附

加ス

第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一

○第五類○刑法○海軍刑法

等ヲ加フ

第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ

第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ死刑ニ處ス

第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ處ス

第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 軍人多衆結合シテ相鬪毆シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十八條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第百條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル時ハ一等ヲ加フ

第百一條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 燒燬毀壞

第百四條 軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬥ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス

二 其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第百六條 軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七條 軍人艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬥ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百八條 軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章 擅權

第百十條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰鬥ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第百十一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得サルノ理由ナシ擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章 違令

第百十二條 司令官艦船若クハ兵隊ヲ率テ故ナク其守地若クハ配置セラ

レシル地ヲ離去シシル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス
三其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第百十三條 將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他
軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷
軍

一軍前ニ在テハ死刑ニ處ス
二軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ
六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
三其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ
附加ス

第百十四條 將校艦船ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ
左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
二軍中又ハ航海中ニ在テハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第百十五條 守兵守所ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ

區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二軍中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三其他ノ場合ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十六條 軍人艦船ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タ
ス其艦船ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來
ラス若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル時ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ
處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十七條 軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ
處斷ス

一敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

二軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三其他ノ場合ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十八條 軍人戰鬥ノ號報アル時故ナク其集合ニ來會セサル者ハ二月
以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十九條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ十日ヲ
過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五類○刑法○海軍刑法

第二百十條 歸休若クハ非職ノ軍人徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十一條 新募ノ兵徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十二條 司令官事變ニ因リ己ムコトヲ得ズ暗号記號ヲ改メ又ハ配置セラレタル地若クハ其命セラレタル所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十三條 軍人命ヲ受ケス艦船内ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但破壊若クハ危險ニ罹リタル船舶ノ商貨ヲ

保護スル爲メ移積シタル者ハ此限ニ在テス

第二百十四條 守兵妄リニ銃砲ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十五條 軍人禮砲號砲其他空砲ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵瓦石等ヲ裝填シテ發射シタルモノハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十六條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十七條 軍人敵前軍中ニ在テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百十八條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁錮ニ處ス

第二百十九條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ四月以上四年外下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○第五類(刑法)○海軍刑法

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁獄ニ處ス

第三百十條 軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百十一條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致シタル者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三百十二條 軍人逃走ノ俘虜降人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第九章 逃亡

第三百十三條 軍人擅ニ艦船屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ逃亡ト爲シテ處斷ス

一 敵前ニ在テハ輕禁錮ニ處ス
二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三百十四條 軍人四人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕禁獄ニ處ス

二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三百十五條 軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス

第十章 詐偽

第三百十六條 軍人敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百十七條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百十八條 海軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痕及ヒ身體強弱ノ偽証ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第三百二十九條 軍人疾病ヲ作為シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ル、ヲテ圖リタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

○第三款 軍人軍屬賭博 明治十七年四月 丙第六十八号達

軍人軍屬賭博犯處分ノ義左ノ通被相達候ニ付右處分細則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

海 軍 省

本年第一號布告賭博犯處分規則ニ依リ處分スヘキ者軍人軍屬ニ係ル時ハ憲兵部ノ處分ニ付シ該部ノ處分ニ付スルヲ得サル場合ニ在テハ陸海軍法衙ノ處分ニ付セシメ候條右規則施行ノ方法細則ハ其省ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ此旨相達候事

但軍人軍屬ニアラスシテ軍人軍屬ト共犯ニ係ル者ハ各其事件ヲ管理ス可キ官司ノ處分ニ付スル儀ト心得可シ

明治十七年三月廿四日

太政大臣三條實美

(別紙)

軍人軍屬賭博犯罪處分細則

第一條 軍人軍屬ノ賭博犯ハ憲兵部ノ處分ニ付スト雖モ該部ノ處分ニ付

スルヲ得サル場合ニ在テハ軍法會議ニ於テ之ヲ處分シ又輕罪以上ノ罪ト俱發ニ係ル時モ軍法會議ニ於テ處分ス可シ

第二條 賭博犯ヲ以テ監獄ニ在ル者ハ海軍監獄ノ規則ニ照準シ其取扱ヲ爲ス可シ

第三條 懲罰ニ處セラレタル者ハ重禁錮ノ囚ニ準シ服役セシム可シ

第四條 過料ニ處セラレタル者ハ二十日以内ニ之ヲ納完セシム若シ限内納完セサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ懲罰ニ換フ其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス但納完期限ヲ待タズ懲罰ニ換フルコトヲ得

懲罰ニ換ヘタル者ト雖モ限内更ニ過料ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲罰ヲ免ス親屬其他ノ者代テ納メタル時亦同シ

第五條 懲罰ノ期限ハ宣告ノ日ヨリ起算シ放免ノ日ハ期限ニ算入セス其一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ但他罪ト俱發ニ係ル時ハ懲罰執行ノ日ヨリ起算ス

第六條 懲罰人悔悟悔改ノ狀アルキハ監獄署長ヨリ 鎮守府監獄署長ハ其長官ヲ經由スヘシ 其犯由及悔改ノ情狀等ヲ海軍卿ニ具申シ減免ヲ請フコトヲ得

○第六類 治罪法

○第一章 治罪法附追告

○第一款 治罪法 明治十三年七月
第三十七号布告

治罪法目錄

第一編 總則

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限

第一章 通則

第二章 逆警罪裁判所

第三章 輕罪裁判所

第四章 控訴裁判所

第五章 重罪裁判所

第六章 大審院

第七章 高等法院

第二編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審

第一章 搜查

第一節 告訴及ヒ告發

第二節 現行犯罪

第二章 起訴

第一節 檢察官ノ起訴

第二節 民事原告人ノ起訴

第三章 豫審

第一節 令狀

第二節 密室監禁

第三節 證據

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

第五節 檢證及ヒ物件差押

第六節 證人訊問

第七節 鑑定

第八節 現行犯ノ豫審

第九節 保釋

第十節 豫審終結

第四章 豫審上訴

第四編 公判

第一章 通則

○第六類○治罪法○治罪法

第二章 遊警罪公判

第三章 輕罪公判

第四章 重罪公判

第五編 大審院ノ職務

第一章 上告

第二章 再審ノ訴

第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第六編 裁判執行復權及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第二章 復權

第三章 特赦

治罪法

第一編 總則

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスル者ニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢察官之ヲ行フ

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ目的トスル

者ニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ス又告訴私訴ノ棄權ニ因

テ消滅スル者ニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之

ヲ爲スヲ得但法律ニ於テ其裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ許サ、ル場合ハ

此限ニ在ラス

又私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得

第五條 公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル法律ニ定メタ

ル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第六條 刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於テ公訴私訴並起

ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲ス可カラズ若シ賠償返還ノ言

渡アリタル後刑ノ言渡アリタル時ハ其効ナカル可シ

第七條 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴アルニ非サレハ

願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得ス

刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ爲シ更ニ

民事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得

第八條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者

○第六類○治罪法○治罪法

ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカル可シ

第九條 訴訟ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ死去

二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ私和

三 確定裁判

四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五大赦

六 期滿免除

第十條 私訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ棄權又ハ私和

二 確定裁判

三期滿免除

第十一條 公訴期滿免除ノ期限左ノ如シ

一 違警罪ハ六月

二 輕罪ハ三年

三 重罪ハ十年

第十二條 私訴期滿免除ノ期限ハ被害者無能力ナル時又ハ民事裁判所ニ

其訴ヲ爲シタル時ト雖モ公訴期滿免除ノ期限ト同一ナリトス公訴ニ付
キ既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ民法ニ定メタル期滿免除ノ例ニ從フ

第十三條 公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス但繼續犯罪ニ
付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第十四條 期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若クハ民事原告人ヨリ起
訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期限ノ經過
ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ
期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタル時ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止
メタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條ニ
定メタル期限ノ二倍ヲ超過ス可カラズ

第十五條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタルニ因リ無効ニ屬ス
ル時ハ期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スルノ効ナカル可シ但裁判官ノ管
轄違ナルニ因リ其手續無効ニ屬スル時ハ此限ニアラス

第十六條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原
由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ニ出タル時ハ是
等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡

意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ
民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告
人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルヲ得
要償ノ訴ハ本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲ス
ヲ得

第十七條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ裁判官檢察官書記又ハ司
法警察官ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故
意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在
ラス

第十八條 此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ即時ヨリ起
算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期
限ニ算入スヘカラス但期滿免除ノ期限ハ此限ニ在ラス
一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年
ト稱スルハ曆ニ從フ

第十九條 此法律ニ定メタル期限ニハ陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フハ
里ニ滿サル者ト雖モ三里以上ナル時亦同シ
島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時
ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ

第二十一條 訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ其地ニ假住所
ヲ定メ書記局ニ届置ク可シ否ラサル時ハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ
申立ルヲ得ス

第二十二條 此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ付キ別ニ規則
アラザル時ハ書記其送達書ヲ作り書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セ
シム

若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時ハ其地ノ裁判
所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ

第二十三條 送達書ハ二通ヲ作り其一通ヲ本人ニ渡ス可シ本人ニ渡ス
ヲ得サル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス可シ

送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシム若シ署名捺
印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スヲ得ス若クハ是等ノ者之ヲ受取ル
ヲ肯セサル時ハ其地ノ戸長ニ渡置キ戸長ハ其書類ニ認印シ速ニ本人
ニ送達スルノ處分ヲ爲ス可シ

○第六類 ○治罪法 ○治罪法

送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其一通ニ記載ス可シ

本條ノ規則ニ背キタル書類ハ送達ノ効ナカル可シ

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ送達ノ證トシテ之ヲ保存ス可シ

第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送達ヲ爲ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ効ナカルヘシ但本人承諾シテ此送達ヲ受ケタル者ハ此限ニ在ラス

第二十五條 官吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署印捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署ノ印ヲ用フル能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ効ナカル可シ

官吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除クノ外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ

第二十六條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アル時

ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スル時ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル者ハ其變更増減ノ効ナカル可シ

第二十七條 此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規則ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサル者ハ其効アリトス
第二十八條 此法律ハ將來頒布ス可キ別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス但其法律ニ抵觸スル規則ハ此限ニ在ラス

從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニ付テハ前項ノ例ニ在ラス

第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルヲ得

第三十條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ從フ

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限
第一章 通常

第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判所ニ屬ス

○第六類○治罪法○治罪法
下五百四十九

第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク

第三十四條 刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ

一 犯罪ヲ捜査ス

二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求ス

三 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス

四 裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス

第三十五條 檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ

第三十六條 裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

第三十七條 書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判始末書其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ル可シ

又裁判言渡其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ

第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルヲ左ノ如シ

一 違警罪ハ違警罪裁判所

二 輕罪ハ輕罪裁判所

三重罪ハ重罪裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テ附帶ノ犯罪ナリトス

一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタル時

二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時

三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時

第四十條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十一條 數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ同時ニ又ハ繼續シテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ

第四十二條 犯罪ノ地ニ非サル裁判所ノ管轄地内ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ

令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可シ

第四十三條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ被告人ヲ捕逮スルコト能ハス若クハ法律上逮捕スルコトヲ許サ、ル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十四條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

高等法院及ヒ陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ本條ノ例ニ在ラス

第四十五條 外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處斷ス可キ者ニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

闕席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所分明ナラサル時ハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 豫審ヲ爲シタル裁判所ハ其公判ニ干預ス可カラス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ闕席裁判ニ對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ其言渡ノ效ナカル可シ

第四十八條 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナリヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本案ノ事件終審ナル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴訟關係人ヨリ上訴スルコトヲ得

第二章 違警罪裁判所

第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス

第五十條 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行フ判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ

第五十一條 違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所所在ノ地ノ警部之ヲ行フ

第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ作り輕罪裁

○第六類○治罪法○治罪法

判所檢事ニ差出ス可シ

事件表ニハ逆警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第五十三條 逆警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之ヲ行フ

第二章 輕罪裁判所

第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス

又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ

又其管轄地内ノ逆警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

第五十五條 輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判所判事壹名

又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第五十六條 豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名

ニ滿一年間之ヲ命ス

又滿一年以上其職務ヲ繼續ス可キヲ命スルヲ得

第五十七條 判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務ヲ行フ

判事補ハ豫審又ハ公判ニ立會ヒ意見ヲ述ルヲ得

第五十八條 輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所檢事又ハ其指名シタ

ル檢事補之ヲ行フ

第五十九條 輕罪裁判所書記ノ職務ハ始審裁判所書記之ヲ行フ

第六十條 東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察

官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府長官ハ

此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第二編ニ定メタ

ル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ

一 警視警部

二 區長郡長

三 治安判事

四 警部ノ在ラサル地ノ戶長

第六十一條 司法警察官檢察官又ハ裁判官ハ他ノ司法警察官檢察官又ハ

裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ證據其他事實參考ト爲ル

可キ事物ヲ集取ス可キノ囑託ヲ受クルヲアル可シ

第六十二條 檢事ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り控

訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

又逆警罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長ニ差出シ

○第六類○治罪法○治罪法

且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第四章 控訴裁判所

第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

第六十四條 刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第六十五條 刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム

裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルヲ得

第六十六條 刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢察長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

第六十七條 檢察長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判所檢察ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告達スルヲアル可

シ
檢察長ハ其管轄地内ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス

第六十八條 檢察長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ

又輕罪裁判所檢事ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法卿ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第六十九條 刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ

第五章 重罪裁判所

第七十條 重罪裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁判ス

第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク

若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢察長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルヲ得

第七十二條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ

○第六類○治罪法○治罪法

判事ヲ以テ之ニ充ツ

第七拾四條 重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢察長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢事長ヨリ始審裁判所檢事ヲシテ其職務ヲ行ハシムルヲ得

第七拾五條 重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ書記之ヲ行フ

第七拾六條 控訴裁判所檢事長ハ開廳ノ後既決事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ

事件表ニハ控訴裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第六章 大審院

第七拾七條 大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス

一 上告

二 再審ノ訴

三 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

四 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第七十八條 刑事局ニ於テハ判事五名以上ニ非サレハ裁判ヲ爲ス可カラズ

第七十九條 刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院判事ニ之ヲ命ス

判事差支アル時ハ民事局判事授任ノ順序ニ從ヒ其職務ヲ行フ

第八十條 刑事局檢察官ノ職務ハ其院檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

第八十一條 刑事局書記ノ職務ハ其院書記之ヲ行フ

第八十二條 檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ

事件表ニハ院長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第七章 高等法院

第八十三條 高等法院ニ於テハ刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪ヲ裁判ス

又皇族ノ犯シタル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ヲ裁判ス又勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判ス

前二項ニ記載シタル者ノ正犯及ヒ從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス其院ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十四條 高等法院ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ開ク其裁判

○第六類○治罪法○治罪法

不可キ事件及ヒ開院ス可キ場所モ亦上裁ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 高等法院へ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判長一名 陪席裁判官六名 但元老院議官大審院判事 中ヨリ 毎年豫メ
上裁ヲ以テ之ヲ命ス

二 豫審裁判官 貳名 但前項ノ式ニ從ヒ之ヲ命ス

第八十六條 豫審判事ノ職務ハ上裁ヲ以テ大審院刑事局判事一名又ハ數
名ニ之ヲ命ス

第八十七條 高等法院檢察官ノ職務ハ大審院檢事長又ハ司法卿ヨリ指名
シタル檢事之ヲ行フ

第八十八條 高等法院書記ノ職務ハ大審院書記之ヲ行フ

第八十九條 高等法院ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ許サス 但左ノ條件ニ於テ

ハ其院ニ上訴スルコトヲ得

一 闕席裁判アリタル場合ニ於テ故障

二 第四百三十六條ト同一ノ場合ニ於テ哀訴

三 第四百三十三條ト同一ノ場合ニ於テ再審ノ訴

第九十條 被告事件夥多ナル時又ハ再審ノ訴ヲ裁判ス可キ時ハ新ニ職員
ヲ命スルコトアル可シ

第九十一條 高等法院ノ訴訟手續ハ通常ノ規則ニ從フ

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第九十二條 檢察官ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他ノ理由ニ因リ
罪犯アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ其證據及ヒ犯人ヲ
捜査シ 第百七條以下ノ規則ニ從ヒ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

第一節 告訴及ヒ告發

第九十三條 何人ニ限ラス 重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ 犯罪ノ地
若クハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ
得

豫審判事告訴ヲ受ケタル時ハ 第百十四條以下ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲
ス可シ

檢事告訴ヲ受ケタル時ハ 第百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ 述ニ其書類ヲ檢事ニ送致ス可シ

違警罪ニ付テハ 犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官又ハ司法警察官ニ告訴
スルコトヲ得其告訴ヲ受ケタル司法警察官ハ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ
移ス可シ

○第六類 ○治罪法 ○治罪法

第九十四條 告訴人ハ成ル可ク其證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キヲ申立
ツ可シ

又告訴人ハ第一百十條以下ノ規則ニ從ヒ民事原告人ト爲ルヲ得

第九十五條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作

リ告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スル

ヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ証書ヲ渡ス可シ

第九十六條 官吏其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪

輕罪アリト思料シタル時ハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スヘシ

告發ハ官吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク証憑及ヒ事

實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

違警罪ニ付テハ違警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ

第九十七條 何人ニ限ラス重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪輕罪アリト

思料シタル時ハ第九十四條第九十五條ノ規則ニ從ヒ其所在ノ地若シハ

犯罪ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ告發スルヲ得

告發ヲ受ケタル官吏ハ第九十三條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

第九十八條 告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スヲ得但第九十六條ノ

場合ハ此限ニ在ラス

無能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人之ヲ爲スモ其効アリトス

第九十九條 告訴告發ハ其願下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルヲ得此場

合ト雖モ第十六條ノ規則ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコアル可

シ

第二節 現行犯罪

第一百條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪

ヲ謂フ

第一百一條 重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時

二 兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時

三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢証スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者

ヲ逮捕スル爲メ且主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタル時

第一百二條 司法警察官及ヒ巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ現行犯ア

ルヲ知リタル時ハ合狀又ハ命令ヲ待タズシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

違警罪ノ現行犯アルヲ知リタル時ハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ之ヲ違

○第六類 ○治罪法 ○治罪法

警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ違警罪裁判所ニ引致スルヲ得

第三百二條 巡査被告人ヲ逮捕シタル時ハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ
其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

第三百四條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル時ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ檢証處分ヲ爲ス可シ

第三百五條 何人ニ限ラス重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルヲ得

第三百六條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルヲ得サル時ハ自己ノ氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡査ニ引渡スヲ得

被告人ヲ巡査ニ引渡シタル時ハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ被告人又ハ巡査ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムヲ得ス
第二章 起訴

第一節 檢察官ノ起訴

第三百七條 檢事犯罪ノ搜查ヲ終リタル時ハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ

二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ輕罪裁判所ニ其訴ヲ爲ス可シ

三 違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ

四 被告人ノ身分犯罪ノ種類又ハ場所ニ因リ其管轄ニ屬セサル者ト思料シタル事件ニ付テハ之ヲ管轄裁判所檢察官ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサル者ト思料シタル時ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

第三百八條 前條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ル時ハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

第三百九條 檢事豫審ヲ求ムル時ハ證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ原被ノ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

第二節 民事原告人ノ起訴

○第六類○治罪法○治罪法

第一百十條 重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サントスル時ハ告訴ト共ニ之ヲ申立テ又ハ告訴ヲ爲シタル後其旨ヲ豫審判事ニ申立ツ可シ

豫審判事直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ公訴私訴ヲ併セテ受理シタル者トス豫審判事ハ何レノ場合ニ於テモ直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

第一百一十條 被害者ハ公訴ノ本案ニ付キ始審終審ノ裁判言渡アルマテ何人ニテモ私訴ヲ爲シ若クハ其要ムル所ヲ變更スルヲ得又私訴ノ願下ヲ爲シタル後更ニ其申立ヲ爲シ若クハ其要ムル所ヲ變更スルヲ得

第一百十二條 被害者ハ代人ニ委任シテ私訴ヲ爲シ又ハ其願下若クハ棄權ヲ爲スヲ得 被害者無能力ナル時ハ法律ニ定メタル代人之ヲ爲ス可シ

第三章 豫審

第一百十三條 現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外豫審判事ハ前章ニ定メタル規則ニ從ヒ檢事又ハ民事原告人ノ請求アルニ非カレハ豫審ニ取掛ルヲ得

ス此規則ニ背キタル時ハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ効ナカル可シ

第一百十四條 豫審判事ハ重罪輕罪ニ付キ直チニ告訴又ハ告發ヲ受ケタル時ハ召喚狀ヲ以テ被告人ヲ呼出シ之ヲ訊問スルヲ得若シ引續キ取調ヲ爲ス可キ者ト思料シタル時ハ其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ

第一百十五條 豫審判事ハ告訴告發ノ事件急速ヲ要スル時ハ直チニ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ發スルヲ得此場合ニ於テハ速ニ此旨ヲ檢事ニ通知シ且證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致ス可シ

若シ其通知ヲ爲シタルヨリ一日内ニ檢事起訴ヲ爲サル時ハ速ニ被告人ヲ放免ス可シ但後日起訴ヲ爲スノ妨礙ト爲ルヲナカル可シ

第一百十六條 被告人所在ノ地ノ豫審判事直チニ告訴告發ヲ受ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ被告事件急速ヲ要スル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問又ハ檢證處分ヲ爲シタル後証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ拘留狀ヲ以テ被告人ヲ送致スルヲ得

第一百十七條 檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟書類ヲ檢

閱スルヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ
又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スヲ得

第一節 令狀

第一百八條 豫審判事ハ檢事又ハ民事原告人ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事
件ヲ受理シタル時ハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ送
達ト被告人出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出廷シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遲クトモ出
廷ノ日ヲ過クルヲ得ス

第一百九條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住居セサ
ル時ハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ其處分
ヲ囑託スルヲ得

第二百十條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時
ハ勾引狀ヲ發スルヲ得

第二百十一條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルヲ得
一被告人定リタル住所アラサル時

二被告人罪証ヲ湮滅シ又ハ逃亡スルノ恐アル時
三被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスルノ恐アル

時

第二百十二條 勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル豫審判
事ニ被告人ヲ引致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其
時間ヲ經過スル時ハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

第二百十三條 勾留狀ヲ發シタル前被告人既ニ豫審判事ノ管轄地外ニ在
ル時ハ被告人ヨリ其所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ヲ求ムルコトヲ得其求

ヲ受ケタル豫審判事ハ假ニ被告人ヲ勾留シ速ニ勾引狀ヲ發シタル豫審
判事ニ其旨ヲ通知ス可シ

第二百十四條 前條ノ場合ニ於テ勾引狀ヲ發シタル豫審判事ハ被告人ヲ
勾留シタル豫審判事ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託シ又ハ前ニ

發シタル勾引狀ヲ以テ被告人ヲ送致ス可キコトヲ請求ス可シ
其囑託ヲ受ケタル豫審判事ハ被告人ヲ訊問シタル後其旨ヲ勾引狀ヲ發
シタル豫審判事ニ通知シ其意見ヲ聽キ被告人ヲ放免シ又ハ前ニ發シタ

ル勾引狀ヲ以テ管轄豫審判事ニ送致ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ

第二百五條 豫審判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他
正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサル事ヲ證明シタル時ハ被告人ノ

所在ニ就テ之ヲ訊問スル事ヲ得若シ被告人其管轄地外ニ在ル時ハ其所
在ノ地ノ豫審判事ニ訊問ノ事ヲ囑託ス可シ

第二百二十六條 勾留狀ハ被告人逃亡シ又ハ第二百二十三條ノ場合ヲ除クノ
外被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料スルニ非サ
レハ之ヲ發スルコトヲ得ス

第二百二十七條 豫審判事ハ勾留狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ過クル時ハ之
ヲ收監狀ニ換ヘ若クハ第二百十九條ノ規則ニ從ヒ被告人ヲ責付ス可シ
檢事ハ被告人ヲ責付スルコトナク更ニ十日間之ヲ勾留ス可キコトヲ豫
審判事ニ求ムルヲ得

第二百二十八條 收監狀ハ既ニ取掛リタル豫審ノ手續ヲ檢事ニ通知シ且其
意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス

第二百二十九條 收監狀ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 被告事件ノ概略及ヒ加重減輕ノ模様アル時ハ其概略
- 二 其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
- 三 檢察官ノ意見ヲ聽キタルヲ

第二百三十條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載ス
可シ但召喚狀ヲ除クノ外其氏名分明ナラサル時ハ容貌體格等ヲ明示ス

可シ

又令狀ニハ之ヲ發スルノ年月日時ヲ記載シ豫審判事及ヒ書記署名捺印
ス可シ

拘引狀拘留狀收監狀ハ巡查ヲシテ之ヲ執行セシム

第三百一十一條 召喚狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ書記局所屬ノ使丁ヲシ
テ被告人又ハ其住所ニ之ヲ送達セシム

第三百二十二條 拘引狀拘留狀收監狀ハ日本全國ニ於テ之ヲ執行ス但時宜
ニ因リ正本數通ヲ作り巡查數人ニ分付スルヲアル可シ

前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其贖本ヲ下付ス可シ此
場合ニ於テハ第三拾三條第二項第四項ノ規則ニ從フ

第三百二十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ被告人其家宅若クハ他人
ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタル時ハ其地ノ戸長又其差支アル時ハ隣
佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

巡查ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ搜索調書ヲ作り立會人ト
共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スヲ得ス

第三百二十四條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルヲ知リ又

○第六類○治罪法○治罪法

ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スル時ハ巡查ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡查ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

第三百三十五條 豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送達シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三百三十六條 陸海軍在營ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタル時ハ所屬長官ニ令狀ヲ示ス可シ長官ハ己ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ其行軍ノ際亦同シ

第三百二十七條 拘留狀又ハ収監狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監倉ニ引致ス可シ若シ其監倉ニ引致スルコト能ハサル時ハ假ニ最近ノ監倉ニ引致スルコトヲ得

何レノ場合ニ於テモ監倉長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

第三百二十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ之ヲ執行シタルコト又執行スルコト能ハサル時ハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ

巡查ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ書記局ニ差出シ書記ハ其受取證書ヲ渡ス可シ

第三百二十九條 拘留狀又ハ收監狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監倉若シハ獄舎ニ在ル時ハ書記ヨリ之ヲ本人ニ送達シ其旨ヲ正本及ヒ謄本ニ記載ス可シ

第三百四十條 密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ代言人ニ接見スルコトヲ得

書翰書籍其他ノ書類ハ豫審判事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルコトヲ許サス但豫審判事ハ其書類ヲ留置シコトヲ得

第三百四十一條 豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非スト思料シタル時ハ豫審中何時ニテモ拘留狀又ハ收監狀ヲ取消ス可シ但收監狀ヲ取消ス時ハ豫メ檢察官ノ意見ヲ聽ク可シ

第三百四十二條 監倉ニハ刑法治罪法ヲ備置キ被告人ノ請求ニ從ヒ之ヲ貸與ス可シ

第二節 密室監禁

○第六類○治罪法○治罪法